

令和2年度 FD・SD ウィークの実施結果について（報告）

高知大学大学教育創造センター

1. FD・SD ウィークの趣旨と目標

【趣旨】教育改善に関する教職員の意識改革の一環として、従来の相互授業参観を見直し、各学部等5授業程度を選んで公開授業とし、授業参観の機会を増やす。これによって

- (1) 授業公開者の授業改善を行う。
- (2) 授業参観を通じて参観する側の教員が授業についての内省を通じた教育改善を図る。
- (3) 特に令和2年度は、オンライン授業に関するFDを兼ねるものとする。

【目標】

(1) 授業公開教員

参観者から得たフィードバックをもとに、次年度以降の授業改善を行う。

(2) 授業参観教員

参観した授業から得られた気づきや新たな教授法などを参観者が内省し、自らの授業改善・教育改善に活かしていく。

(3) 職員

公開授業を参観することで、本学が行う教育の一端に触れ、日常の業務に反映させていく。

2. 実施期間と開講科目数

期 間：令和2年10月23日（金）～令和2年12月18日（金）

科目数：41科目（延べ62回開講 ※オンデマンドのオンライン授業は1回として集計）

3. 参加者数（参観申込者数、授業参観記録登録者数）

本年度の、FD・SD ウィークの授業参観は、Web ページ上の集計で教職員合わせて延べ170人（教員86人、職員84人）の申し込みがあり、参観後の授業参観記録登録者数は延べ141人（教員70人、職員71人）であった。

（昨年度実績：申込者343人（教員104人、職員239人）、授業参観記録登録者273人（教員81人、職員192人））

科目ごとの参観申込者数及びコメント登録者数（延べ人数）

No.	時間割 コード	科目名	授業形態	参観申込者数			コメント登録者数		
				教員	職員	計	教員	職員	計
1	02019	日本の古典文学入門	オンライン非同期型	3	3	6	2	3	5
2	04040	土佐の自然と農林業	オンライン非同期型	3	8	11	1	6	7
3	07005	キャリアプランニング I	オンライン非同期型	8	8	16	5	8	13
4	07157	学びの統合入門	オンライン非同期型	3		3	3		3
5	07159	業務効率化のための IT 活用入門	オンライン非同期型	3	18	21	2	12	14
6	25033	経済学概論	オンライン非同期型	2	3	5	2	3	5
7	25060	国際関係論	オンライン非同期型	3	2	5	3	2	5
8	25063	社会ネットワーク論	オンライン非同期型	1		1	1		1
9	26117	日本中世社会史	オンライン非同期型	3	5	8	2	4	6
10	26137	西洋文化史 II	オンライン同期型		2	2		2	2
11	28066	行政法 I	オンライン非同期型	1	1	2	1	1	2
12	41226	教育行政学	オンライン非同期型	4		4	4		4
13	41240	学校カウンセリング（中等）	オンライン同期型	3	1	4	3	1	4
14	42130	経済学概論	オンライン同期型	1	1	2	1	1	2
15	42904	英語学基礎演習	オンライン同期型	1		1	1		1
16	43014	中等数学科指導法 II	オンライン同期型	1	4	5	1	4	5
17	43049	中等英語科指導法 II	オンライン同期型	1	1	2	1	1	2
18	51107	医科生物科学 II	オンライン非同期型	1	1	2	1	1	2
19	51231	生化学	オンライン非同期型	1		1	1		1
20	51448	臨床薬理学	オンライン非同期型	1	2	3	1	1	2
21	52107	身体のしくみ(演)	オンライン非同期型		5	5		3	3
22	60003	地域産業経済論	オンライン同期型		1	1		1	1
23	60018	質的調査法	オンライン同期型	3		3	3		3
24	60066	地域防災論	オンライン同期型	1	1	2	1	1	2
25	71106	線形代数学 II	オンライン非同期型	2	1	3	2	1	3
26	71611	電磁気学演習	対面	3		3	3		3
27	72121	情報ネットワーク論	オンライン非同期型	6	2	8	5	2	7
28	74112	分子生物学	オンライン非同期型	1		1	1		1
29	74141	先端機器分析学 II	オンライン非同期型	4		4	3		3
30	74144	発生工学	オンライン非同期型	1		1	1		1
31	77104	理工学情報処理演習	対面	4	3	7	4	3	7
32	77114	構造力学	オンライン非同期型	4		4	3		3
33	81053	昆虫学	オンライン同期型		3	3		2	2
34	81080	森林土木学	オンライン非同期型	2	2	4	2	2	4
35	81100	測量学・実習	オンライン非同期型	2		2	2		2
36	82034	食品保存学	オンライン非同期型	1	3	4		3	3
37	83006	海洋管理政策論	オンライン非同期型	2		2	1		1
38	83023	海洋化学概論	オンライン非同期型	4	1	5	2	1	3
39	83028	水質学	オンライン非同期型	1		1			
40	92108	English for International Studies II	オンライン同期型	1		1	1		1
41	92116	English for International Studies IV	オンライン同期型		2	2		2	2
合計				86	84	170	70	71	141

4. 授業参観記録

授業参観後に、参観者が Web 上で授業参観記録を作成した。その質問項目（記述コメントおよび選択回答）と回答の要旨を以下に示す。

【教員】

（１）参観した授業について、教員の授業方法や学生の学習形態等について、特に印象に残ったことはどんなことですか。（自由記述式）

本年度の公開では、オンライン授業による授業実施がほとんどであったことから、設問で求められている授業方法に関しては、オンライン授業の組み立て、方法や資料（パワーポイントによる提示方法、）、事前課題などオンライン授業方法や構成に着目された具体的な記述が多くみられたことが特徴であった。これらは、オンライン授業に対して、参観する教員の関心の高さがうかがえる。

（２）授業を参観して、あなたが実施している授業方法や学生の学習形態等についてあらたに気づいたことはどんなことですか。（自由記述式）

参観した教員は授業方法を取り上げながら、自己の授業方法の反省点を記述するコメントが多くみられた。具体的には、資料提示の方法、学生の思考への介入方法、説明の仕方、学生へかかわる教員の姿勢などについて記述されたものが多くみられた。この設問では、他の先生の参観授業を通して、自己の授業方法と比較し、内省的に振り返る記述が多くみられ、一定の成果を得られたと捉えることができる。

（３）参観した授業での授業方法や学生の学習形態等で、自分の授業にも取り入れてみたい、あなたの授業に取り入れることが可能だと思うことはどんなことですか。（自由記述式）

本年度は、オンライン授業による公開授業がほとんどであったことから、その授業技法を見たいという気持ちで参観された先生が多いようであった。よって、記述も具体的なものがほとんどであった。具体的には、授業の全体設計にかかわること、教員の説明方法、資料提示の方法、学生とのやりとりの方法、オンライン上での学生の動かし方、確認テストの方法などである。記述を読むと、参観教員は、これまで以上に細部にわたって観察していることがうかがえる。また、その記述は、自己の授業への導入を想定されたものがほとんどであり、行動につながるものであった。

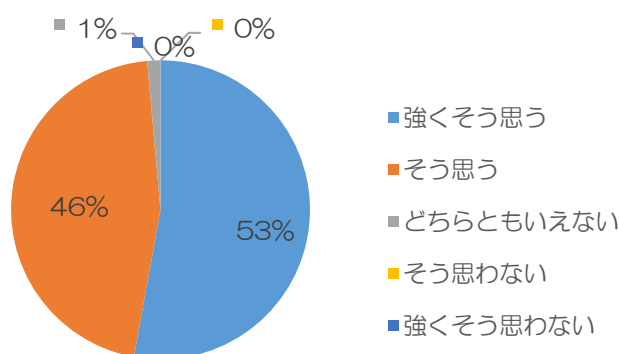
（４）参観した授業の授業方法や学習形態について、授業担当者へのコメントがあれば書いてください。（自由記述式）

これまでと同様に授業参観へのお礼とともに、授業のどこが良かったなどを具体的にコメントされたものが多くみられた。また、同じ教員であるという立場からのアドバイスや助言的なコメントであり、授業公開者にとって有益なものであったと考えられる。

（５）この取組は、あなたの授業改善や教員としての意識改革に役立つものでしたか。（５段階択一式）

99%が肯定的な回答をしており、本取組は、意識改革に役立つものであったことが伺える。

(5) この取組は、あなたの授業改善や教員としての意識改革に役立つものでしたか。



	度数	割合
強くそう思う	37	53
そう思う	32	46
どちらともいえない	1	1
そう思わない	0	0
強くそう思わない	0	0
	70	100

【職員】

(1) 参観した授業で、講義の教育方法や学習形態等について、特に印象に残ったことはどのようなことですか。(自由記述式)

本年度、公開された授業の多くは、オンライン授業であったことから、その授業にかかわる印象の記述が多く見られた。記述内容は、授業にかかわる技法であり、授業デザインの方法、授業資料の提示方法であった。また、公開授業の多くは、オンデマンド型であったことから、そのメリットの記述も多くみられた。本年度は、オンライン授業という新しい学習形態について理解を深めてもらう好機になったといえる。

(2) 参観した授業で、学生の様子について気がついたことはどのようなことですか。(オンライン授業を参観された方は回答不要です)

本設問については、オンライン授業のため、コメントすることが難しい状況であることから、回答が少なかった。

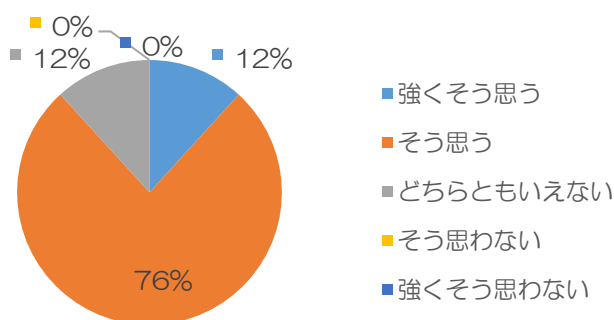
(3) 参観した授業について、授業担当者へのコメントがあれば書いてください。(自由記述式)

授業参観のお礼や、授業内容が有益であること、授業内容にかかわるコメントが見られた。また、昨年度に引き続き、授業内容に関心があるとのコメントも多く寄せられていた。個人の業務に関わる内容であったことや、プレゼン等に活用できる内容、自己のキャリアに向き合う内容だったなどのコメントもみられ、狭義のSDとしての授業を活用することについても示唆されるものであった。

(4) 参観が行われた教室の環境の整備や設備について、学習に適していると思いませんか。(5段階択一式)

この設問に対して、88%が、肯定的な回答であった。本年度はオンライン授業であったことから、肯定的な回答は、オンライン学習環境整備の良さを示すものであるととらえることができる。特に、公開された授業は Teams による同期型授業、Moodle による非同期型授業であり、学生を対象とする授業形態と同一のものであり、本学の最新の授業形態であることから、本学の学習環境の良好さを示すものであると捉えることができる。

(4) 参観が行われた教室の環境の整備や設備について、学修に適していると思いませんか。(オンライン授業を参観された方は回答不要です)

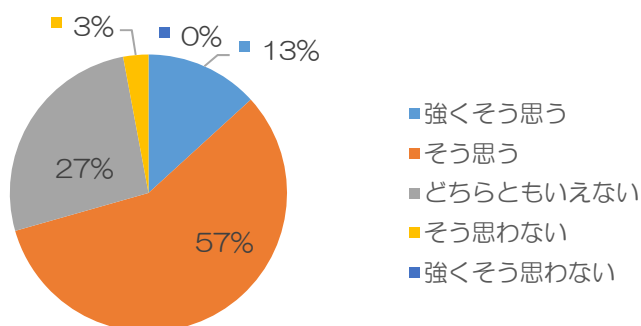


	度数	割合
強くそう思う	2	12
そう思う	13	76
どちらともいえない	2	12
そう思わない	0	0
強くそう思わない	0	0
	17	100

(5) 授業を参観して、高知大学の教育(授業)を自らの業務に関連づけて考えましたか。(5段階択一式)

昨年度の肯定的回答は、65%であり、本年度は、70%と伸びていた。したがって、昨年より自らの業務に関連付けて参観した職員の増加がうかがえる。その要因としては、業務にかかわる授業の公開があったことが考えられる。

(5) 授業を参観して、高知大学の教育(授業)を自らの業務に関連づけて考えましたか。

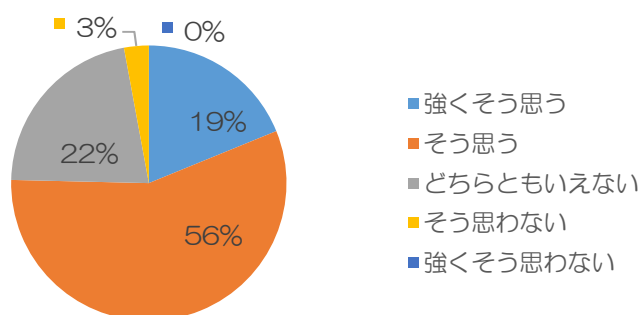


	度数	割合
強くそう思う	9	13
そう思う	39	58
どちらともいえない	18	26
そう思わない	2	3
強くそう思わない	0	0
	68	100

(6) この取組はあなたの大学教育への理解の促進や、大学職員としての自分を見つめ直す機会となりましたか。(5段階択一式)

昨年度は82%であり、本年度は75%とやや低下していた。

(6) この取組は、あなたの大学教育への理解の促進や、大学職員としての自分を見つめ直す機会となりましたか。



	度数	割合
強く思う	13	19
そう思う	39	56
どちらともいえない	15	22
そう思わない	2	3
強く思わない	0	0
	69	100

(7) (4) ~ (6) の回答の理由や、来年度の本取組の実施に向けての忌憚のないご意見・ご要望をお聞かせください。(自由記述式)

本年度の取り組みは、オンライン授業の参観であったことから、これまでの対面授業による取り組みとは異なり、オンデマンド型授業の利点を評価するコメントが多くみられた。その利点とは、「いつでも視聴ができること」時間の制約がないことが挙げられていた。忙しい業務の中受講する職員が多いことから、次年度以降、オンデマンド型の参観授業を一定数設置すること望ましいと考えられる。また、内容については、仕事に役立つ内容の授業評価が高いことから、次年度以降は、狭義の意味のSDの要素を持つ授業を一定数参観授業の科目として公開することによって、SDとしての有効性が期待できると考えられる。これにより、従来職員の記述の中にあつた参観への意義が見いだせないなどの否定的な気持ちでの参観を防ぐものになると考える。

5. 成果について

参観後のアンケート調査の結果から、本企画の趣旨や目標に対する成果として、次のようにまとめられる。

【授業参観教員】

授業参観の成果は、「あなたの授業改善や教員としての意識改革に役立つものでしたか」という設問に対して、99%（昨年度は94%）の肯定的な回答が寄せられており、本取り組みは、一定の効果を得ることができているととらえることができる。肯定的回答の要因として、今年度より急遽始まったオンライン授業を上げることができる。多くの教員はこのオンライン授業にかかわる授業のノウハウを持たないままに始まり、試行錯誤をしながらオンライン授業に取り組んでいたことから、他の教員の授業実践から、そのノウハウを学びたいと、本事業に対して期待を寄せていたと推測することができる。結果、参観後には、参観した授業の実践を学ぶことができ、自己の授業に活用できる知識であることから、肯定的な回答が昨年以上にみられた要因であると捉えることができる。したがって、本年度の実施については、昨年を上回る大きな成果が得られた。

【職員】

本年度の成果は、設問「あなたの大学教育への理解の促進や、大学職員としての自分を見つめ直す機会となりましたか。」から捉えることができる。この設問に対して75%の肯定的な回答を得ており、一定の成果を得られたと捉えることができる。特に本年度は、急遽始まったオンライン授業への参観であることから、最新の本学の教育に対する理解の促進につながるものになったと捉えることができる。

また、本年度の公開された授業の多くは、非同期型のオンデマンド型授業であったことから、受講する時間に制約がないことから、時間を定めることなく、空いた時間に視聴することができたとの意見も多くみられた。したがって、一定の成果を得られたと捉えることができる。